

ワクワク子育てトーク（ぐんまの親の学びプログラム）に係る実態（意識）調査（市町村教育委員会回答）の集計及び分析・提言（県教委・教育事務所・市町村教育委員会用）

はじめに

市町村教育委員会の皆様には本調査について、お忙しい中御回答いただき誠にありがとうございました。皆様から御提出いただいた回答がとりまとめられましたので、御報告いたします。集計結果については、今後県で行う家庭教育支援事業の参考資料として活用させていただきます。

今後も市町村の皆様とともに、県全体で家庭教育支援を推進していきたいと考えております。御理解、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

1 本調査の目的

平成30年度より本格実施となっている「ワクワク子育てトークング（ぐんまの親の学びプログラム）」（以下「プログラム」）について、実施初年度を振り返るとともに、市町村での主な実施主体となっている教育委員会事務局の実態（意識及び意向）を聴取し、今後のプログラムの周知、普及、拡充のための参考資料とする。

2 本調査の方法

本調査は、各教育事務所及び県内35市町村教育委員会（家庭教育所管部局）に、質問紙によるアンケート調査を行い、その結果を集計し県全体の傾向を分析する。分析結果について考察を加え、提言を行うものである。各教育事務所へは文章記述による意見聴取、市町村教育委員会へは選択を主とする実態・意識調査を行う。調査結果については、各教育事務所・市町村教育委員会のものをそれぞれ別にまとめる。提言についてはそれぞれの調査結果から考察を加え、対象別のものとしてまとめる。

3 本調査の内容

本調査の内容については、「ワクワク子育てトークング（ぐんまの親の学びプログラム）」に係る周知（認知）、実施、内容に係る意識、実施上の課題、意見等をアンケート形式で調査する。

4 本調査の公開

本調査結果については、各教育事務所からの意見・市町村教育委員会より提出された回答票を取りまとめ、事務所意見や市町村からの回答データ集計をもとに、それぞれ提言を行う。いずれの公表データについても、個別の教育事務所名及び市町村教育委員会名は掲載しない。公開については、各教育事務所及び市町村教育委員会にデータにて送付するとともに、一部を群馬県生涯学習センターWebページに掲載する。

5 その他

・教育事務所からの意見については、内部資料として扱うため、公開については「回答状況をもとにした現状や課題」のみをWeb掲載する。

・本調査に係る提言については、今後の「ワクワク子育てトークング（ぐんまの親の学びプログラム）」の普及のための施策立案の参考意見として何らかの機会に口頭提言する。

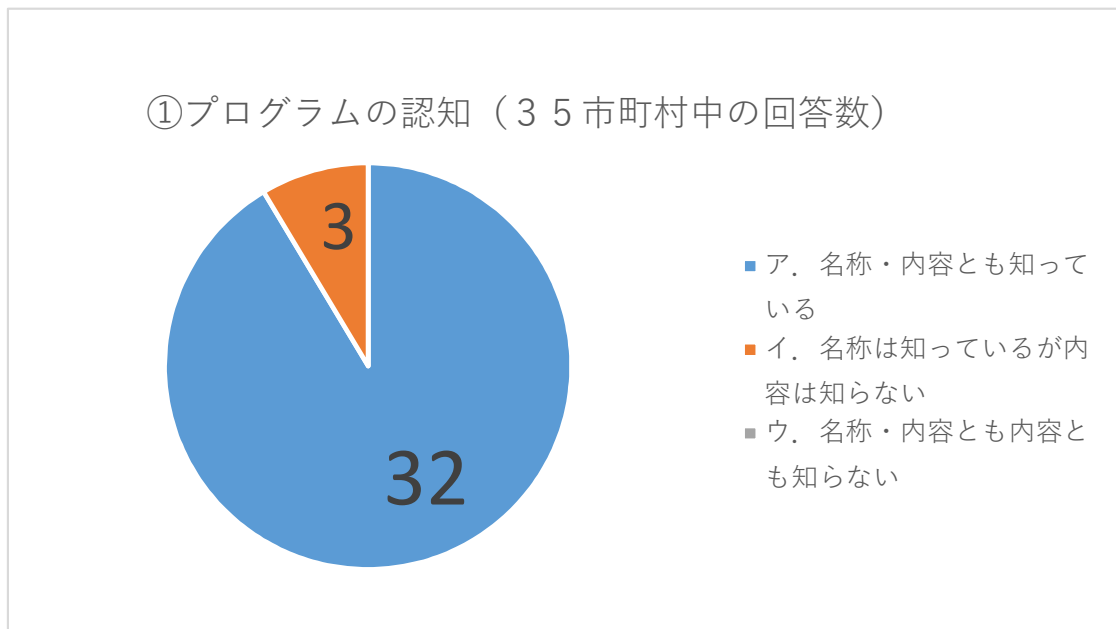
平成30年度「ワクワク子育てトークング（ぐんまの親の学びプログラム）」に係る各市町村教育委員会の回答〔認知（周知）・活用・内容等の現状及び課題、意見）集約・提言

○各市町村教委の回答状況及び課題

1 「ワクワク子育てトークング（ぐんまの親の学びプログラム）」（以下「プログラム」）の周知（認知）・活用について

(1) プログラムの周知（認知）

①【全員共通】プログラムがどのようなものか知っているか。



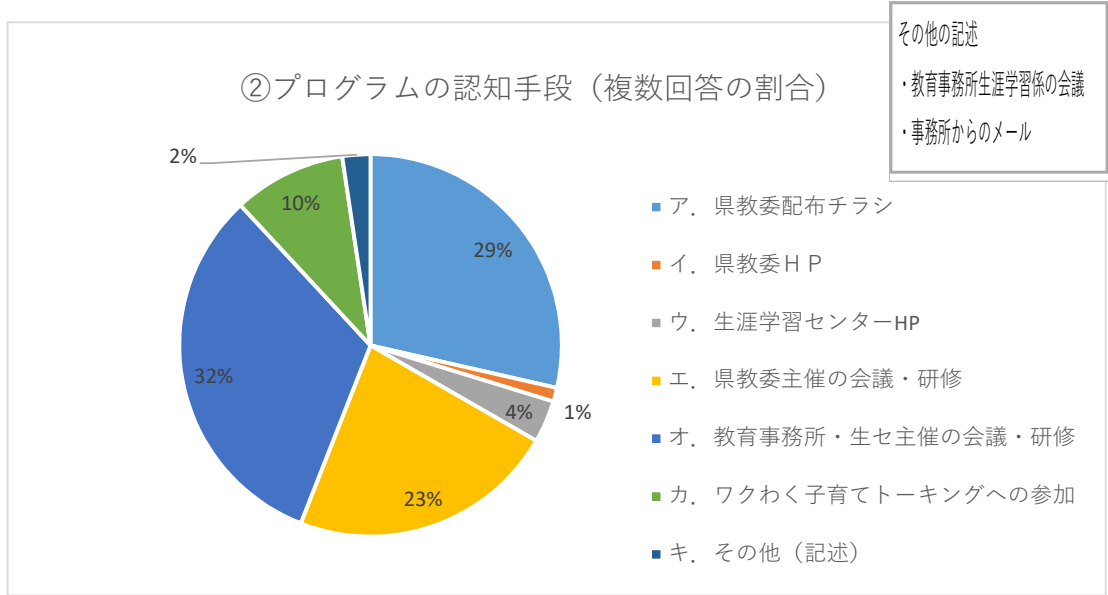
□現状

- ・ 大部分の市町村がプログラムについて名称、大まかな内容を理解している。

■課題

- ・ 「名称は知っているが内容は知らない」と回答している市町村もあることから、特にプログラムの特質や、効果について周知を図る取組が必要である。

②【設問①でアを選択した市町村が回答】プログラムの名称、内容をどこで知ったか。



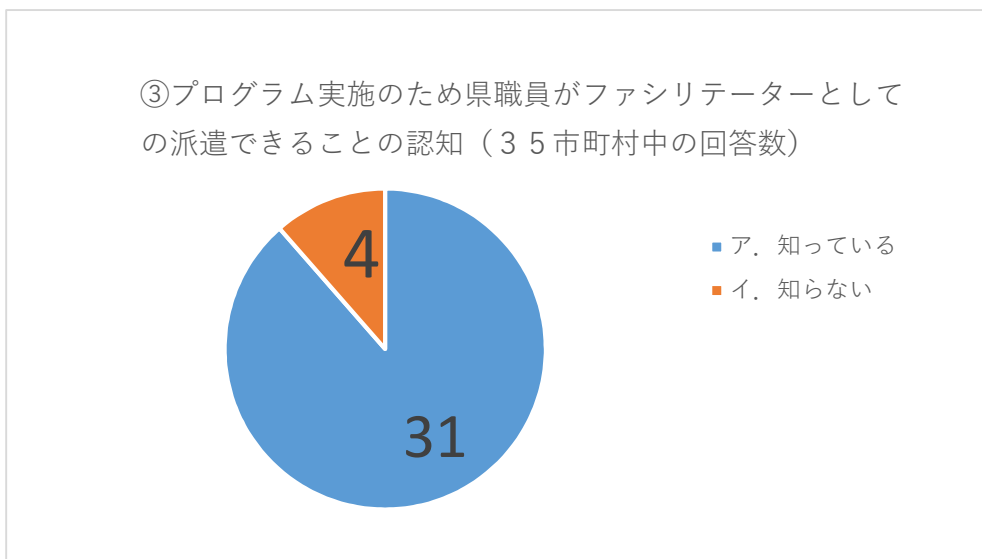
□現状

- ・周知手段で有効であったのは、県全体に配布している広報チラシ及び各種会議、研修での説明等であった。特に市町村と密接な関連がある各教育事務所の周知活動はチラシによる広報の選択割合を上回っている。

■課題

- ・ホームページにはプログラムシート等の内容が掲載されており、内容を知る上では有効であるが、割合が低い。

③【全員共通】プログラム実施のための、県がファシリテーターを派遣していることを知っているか。



□現状

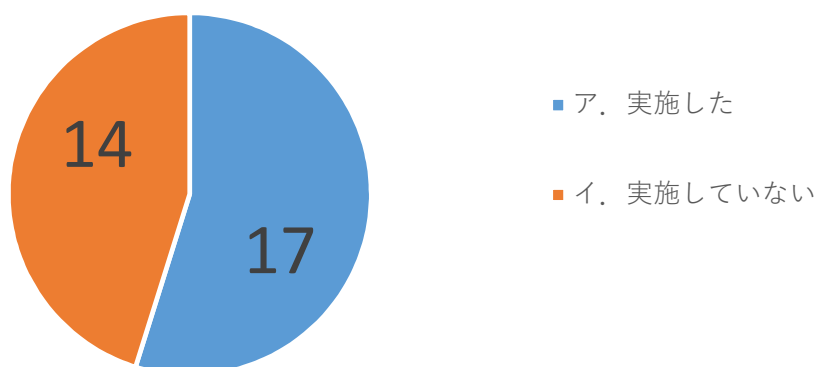
- ・ ほぼ全市町村で教育事務所、県教委生涯学習課、生涯学習センターの職員が、市町村の求めに応じ、ファシリテーターとして出向することは知っている。

■課題

- ・ 県職員の出向は、プログラム実施上の大きな人的支援となることから、周知を徹底する必要がある。

④【設問③でアを選択した市町村が回答】県職員が出向きプログラムを実施したか。

④プログラムを実施した市町村数（③で「知っている」と回答した31市町村中の回答数）



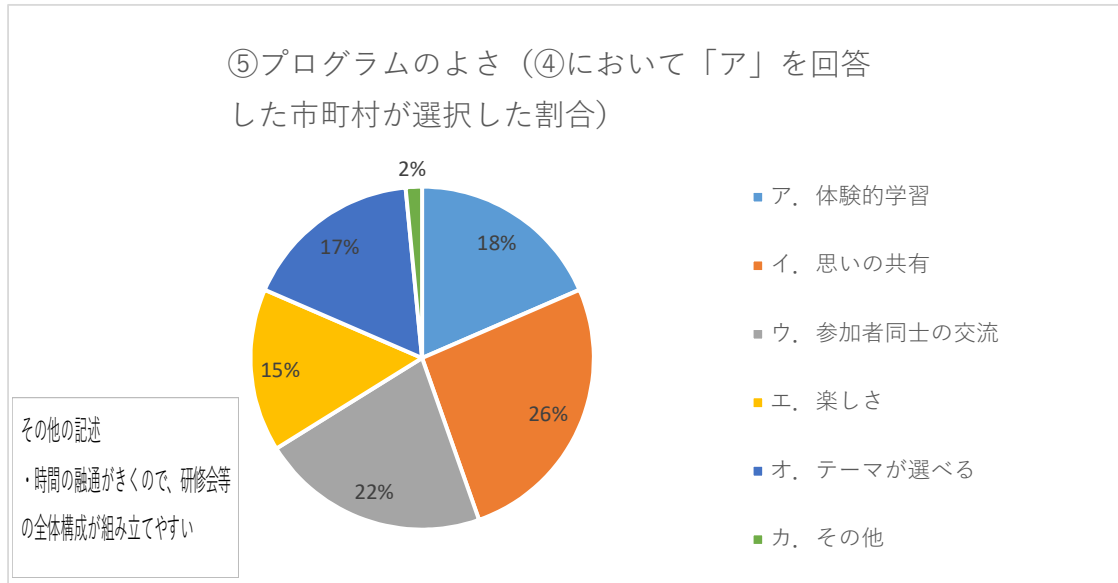
□現状

- ・ 31市町村のうち、ほぼ過半数の市町村が実際にプログラムを実施している。（17市町村の開催回数は30回であったが、実際は県職員の出向回数はそれ以上であることから教育委員会を介さない実施があったものと思われる。）

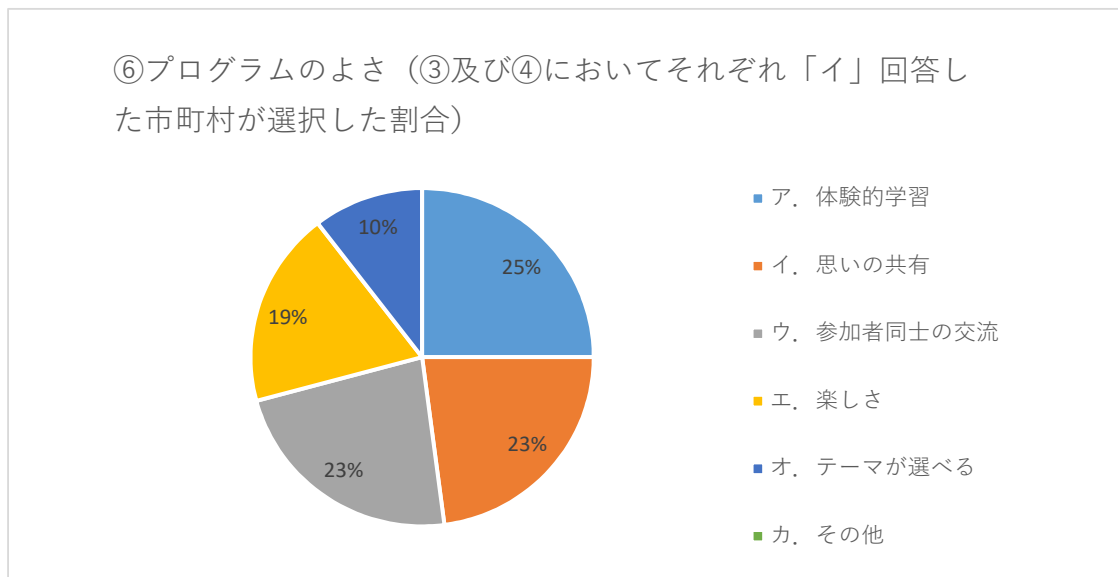
■課題

- ・ 実施市町村の拡大のため、実施しなかった理由について、⑧⑨の回答を含め、検討が必要である。

⑤【設問③でアを選択した市町村が回答】プログラムのよさはどこか。



⑥【設問③又は④でイを選択した市町村が回答】プログラムのよさはどこか。



□現状

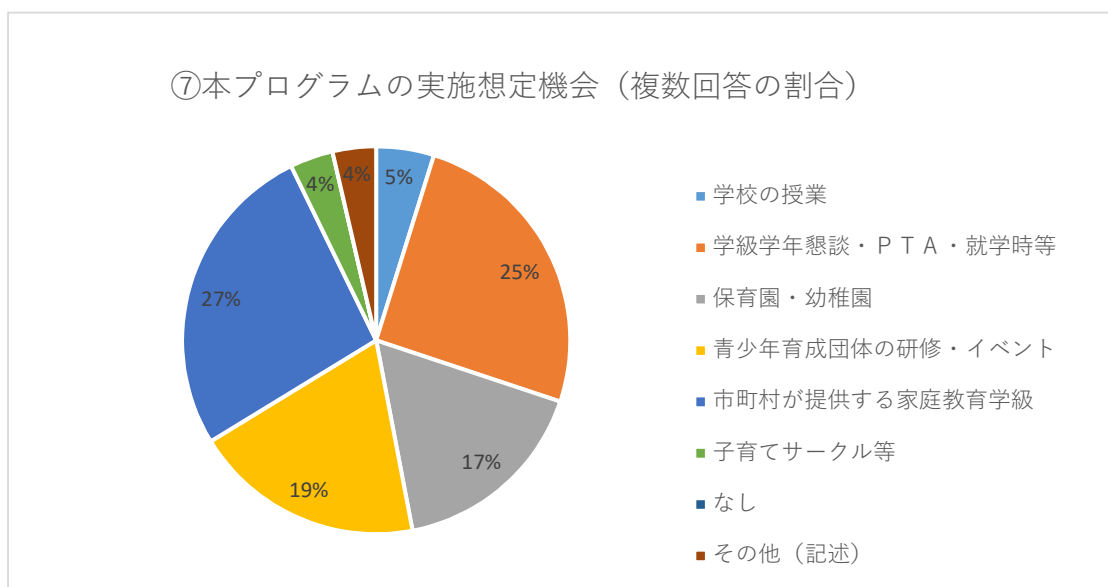
- ・本プログラムの主たるねらいである「体験的学習」「思いの共有」「参加者同士の交流」について、各市町村より理解が得られている。
(⑥については、事前に生涯学習センターのプログラム掲載ページアドレスを閲覧後回答してもらうよう質問用紙に記載。)

■課題

- ・難しい学習ではなく参加者が「楽しく」（主体的で和やかな雰囲気での）学習できる「学び」であることについても、担当者・参加者のモチベーション向上の観点から広報する必要がある。

(2) プログラムの活用

⑦【全員共通】プログラムの実施想定機会はどこか。



その他の記述

- ・町P T A連絡協議会研修会

□現状

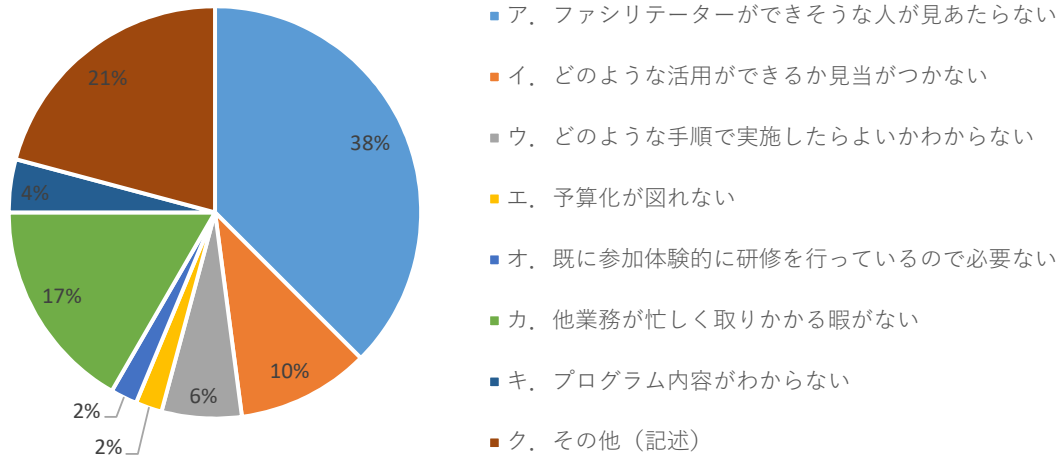
- ・回答者が生涯学習・社会教育担当部局であることから、学級での活用が多く想定されているが、プログラムの性格から、学校での学年・学級懇談、P T A、就学時健康診断も同様に多く想定されている。

■課題

- ・教育委員会が所管しないことが想定される子育てサークル等の民間団体への周知方法について検討する必要がある。

⑧【全員共通】プログラム実施上の課題は何か。

⑧本プログラムの実施上の課題（複数回答の割合）



その他の記述

- ・特に課題なし（2）
- ・プログラムのよさを周知できない
- ・今年度団体に声かけしたが反応がなかったのできっかけづくりが必要
- ・次年度実施予定
- ・開催した場合の人集め 参加者が少ない
- ・参加者が集まるかどうか
- ・事業実施する上で人員確保が困難
- ・実施対象団体との日程調整
- ・テーマを変えて実施するのも限界があり、似た対象に何度も開催すると飽きられてしまう可能性がある。

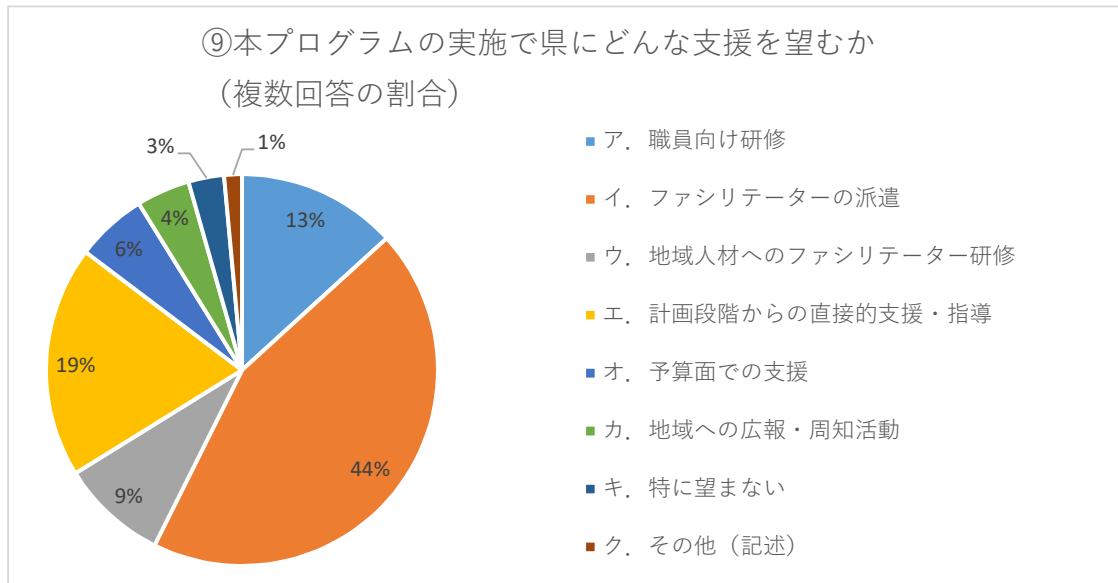
□現状

- ・「ファシリテーターが見あたらない」との回答が4割弱を占めている。次いで「業務多忙」が挙げられている。また、特記事項として運営（実施団体との日程調整・参加者確保）面での課題が挙げられている。
- ・1割の市町村が予算面での課題を選択しているが、これは研修会そのものに係る運営費用、ファシリテーターへの謝金等の両面で回答していることが想定される。

■課題

- ・本来、現状の県職員によるファシリテーター実施であれば、費用面での負担はほぼない状況であることを含め、県職員によるファシリテーター実施の周知を図っていく必要がある。
- ・業務多忙も含め運営面での不安を抱えている市町村が多いことから、参画的に県職員が関われるかどうか検討する必要がある。

⑨【全員共通】プログラム実施に際し、県にどんな支援を望むか。



その他の記述
 ・どんな機会、企画の中で実施されたか、実施例を具体的に教えてほしい。

□現状

- ・ファシリテーターの派遣を望む市町村が5割弱を占めている。次いで「計画段階からの直接的支援・指導」「職員向け研修」となっている。また、特記事項として「実施の具体例を教えてほしい」という意見は注視すべき点である。
- ・「地域人材への研修」を望む市町村は、1割弱となっている。

■課題

- ・地域人材によるファシリテーター養成が始まったばかりということもあり、現況では県職員によるファシリテーター実施を望む声が多いが、県内全域への恒常的実施を考慮し、地域人材育成及び活用をどのような計画で実施していくか検討すべきである。
- ・県職員による実施のための計画的介入の余地を含め、周知について検討すべきである。
- ・実施の具体例について、どのように市町村に情報提供すべきが検討する必要がある。

⑩【全員共通】プログラムに追加したい対象、例話があるか。

⑩プログラムに追加したい対象及び内容

【対象】

- ・親の親世代（祖父や祖母とのやり取りから、孫との接し方を学ぶ）
- ・地域の大人や高齢者（子どもや孫がいるいないに関わらず）
- ・ゲーム依存症予備軍
- ・将来の親世代には、中高生以外は含めないのでしょうか。
- ・祖父母 障害をもつ方

【内容】

- ・子と親との約束を祖父や祖母がどのように、守らせるか考える場面（ゲームの時間、お小遣いの量、帰宅時間等）
- ・防災教育
- ・子育てする親の、あるべき姿について
- ・ゲーム依存症を抜け出すために
- ・「スマホ」ではなくて「ネット」か「SNS」の方が幅が広いのではないのでしょうか。
 - ・内容としては、十分だと思いますが、同じテーマについての例話バリエーションが豊富にあるとさらによいと思います。
- ・孫育て、公共の場で騒ぐ
- ・兄弟間の劣等感

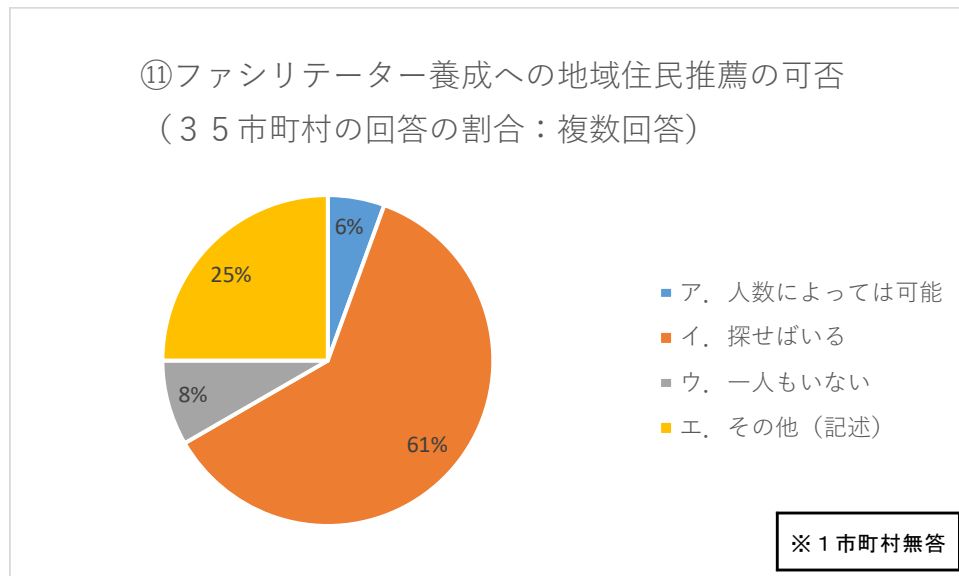
□現状

- ・祖父母世代についての対象及び例話に係る意見が複数出ている。このことは防災教育や障害をもつ子どもに係る例話追加を含め、教育事務所からも意見として提示されている。
- ・「子育てする親のあるべき姿」の例話追加については、教育事務所からの回答「話し合うだけでなく、参考となる資料を提示することは可能か」との意見にも関連している。
- ・テーマや例話のバリエーションの充実について意見が出されている。

■課題

- ・テーマ、対象、内容について将来的な展望を含め検討する必要がある。

- ⑪【全員共通】県で行うプログラム実施のためのファシリテーター養成に住民を推薦することは可能か。



その他の記述

- ・住民の要望による。
- ・探すことはできるが、人材が見つかるかどうか分からない。
- ・ほとんどの方が仕事をしているのでなかなか難しいところがある。
- ・探しているがなかなか見つからない。
- ・PTA・NPO等を通して探せるかもしれないが、わからない。
- ・人材は探せばいると思うが、ファシリテーターの負担が大きい等の問題がある。
- ・小さな町なので、協力してくれる人は限られ一人何役にもなってしまい負担になる。大きな市と小さな町村を一緒に考えるのは難しい。
- ・具体的には不明。
- ・今のところわからない。

□現状

- ・全体の6割の市町村が何らかの形で地域住民の推薦は可能と回答しているが、その他の記述にもあるとおり、町村部等は人材が限られている状況もうかがえる。

■課題

- ・県全体への普及を目指す意味でも、今後のファシリテーター養成の対象について十分検討する必要がある。

2 プログラムに関する意見

・教育事務所の社教主事さん、指導主事さんには、忙しい中お越しいただき、大変感謝しています。自分自身もファシリテーターの養成講座を受けましたが、実際に活動するとなるとその余裕はなく、二の足を踏んでしまっている状況ですので、東部教育事務所や生涯学習センターの方がファシリテーターとして来ていただけるのは、大変助かります。本市では、家庭教育支援チームが、更正保護女性会を巻き込んで、積極的に活動の幅を広げてくださっています。今年度は、地区の更正保護女性会研修で本プログラムを実施し、さらに平成31年度は市全体の更正保護女性会の総会・研修会の場において、実施する予定となっています。両方とも教育事務所より派遣していただいています。今年度の研修会では、学びプログラの前に、「地域として何ができるか、どうすればよいのか」というお話を社教主事さんよりしていただいたので、大変充実した内容となりました。地域の大人として何かしたいという情熱のある方がたくさんいらっしゃいますので、このような研修会をきっかけに、「私もファシリテーターとしてやってみよう」という方が出てくるかもしれません。呼びかけを継続して行って行きたいと思います。

・このプログラムを実施させていただいたところ、「新たな気づきとともに、子育てに対する興味・関心・意欲がもてた」など、参加者の多くが前向きな回答をしています。しかし、これを進行するファシリテーターとなる方が大変だなと感じました。この点では、ファシリテーターを経験したり、学んだりする機会（ファシリテーター養成）が必要だと思います。

・現在、LGBTの話題が増えています。子どもからカミングアウトされたとき、また自分の子どもがLGBTかもしれない場合の対応などはいかがでしょうか？内容が人権擁護関係になってしまう可能性もありますが、今後起こりうるケースの一つとして考えていくことも必要ではないでしょうか。

・家庭教育支援は重要な施策だと思っているが、どこからはじめて手をつけるべきかわからないので、まずはワクワク子育てトークンプログラムを実施してみようと考えている。

・社会教育部局でワンクッション置くよりも、直接子育て世代それぞれに対象を絞り、現場に近い所で行った方が有効だと思う。

・こういったプログラムに積極的に参加してくれる親は比較的安心できるが、子育てにあまり関心の無い親や、問題のある親について改善できるようなプログラムを実施してほしい。

・ファシリテーター養成講座を受けた人材が、自信をもって地域での講座等で、活躍できるようになるまで、ファシリテーターの卵の補佐をしていただけると、何度か補佐してもらえれば、一人でできるようになる。また、養成講座に出た方々を活用する機会を確保し

ていただき、実地訓練をすることで、独り立ちしたファシリテーターを育てることができると思います。

学校の学級懇談会などでの活用を促すために、PTA の役員や学校の学年主任、研修主任などが、ファシリテーター養成講座を受講すると良いと思います。または校内研修の現職教育の分野で取り入れてもらうのも良いと思います。

以前によく言われていた「ワークショップ型の学級懇談会」などを、県総合教育センターの生徒指導主任対象の講座などで扱っていましたが、そのような講座の一コマに、子育てトークンを取り入れることもできるのではと思います。

- ・家庭教育講座で実施する予定だったが、人数が集まらず開催できなかった。

- ・今年度市内中学校の PTA セミナーで行われたワクワク子育てトークンに参加させていただきました。参加させていただいた活動では参加者が積極的に話しあいに加わり、いきいきと活動していた姿が印象的でした。きっと事前の打ち合わせを綿密に行い、参加者の実態を把握されていたのだと思います。

- ・保護者同士の意見交換をとおして新たな気づきがあり満足する保護者がいる一方、少数ではあるが専門的な答えを求める保護者もいる。また、グループワークが苦手な保護者は苦痛な時間であることが感想から分かった。そのような保護者の満足度を高めるための手だても必要だと感じた。

地域にファシリテーターがいることが理想だと思うが協力できるような人は他の事業等でも声がかかっている。人材の取り合いになっている状況もあり人材の確保は難しいと考える。

- ・これまで保育所と小学校で5回実施しました。ファシリテーターは、町の職員が務めるより外部（教育事務所や生涯学習センター等）から来てもらった方が、保護者は気軽に話せてよいと思います。

これまで実施してきて、参加者同士の意見交流の後、「こんな手もありますよ」というような、参考となるようなことを1つだけでも持ち帰れるような形になると、さらに満足度が上がるのかなと感じています。

今年度、教育事務所のご協力をいただき3回実施しました。村単独ではなかなか計画できない事業で、参加した方からも好評でした。この事業が好評だった理由は、参加者が悩みを共有したり、参考にしたりという今までなかなか聞けなかったことや話せなかったことを聞いたり話したりすることができるということだと思います。また、あえて行政職員や学校職員が同席しないで行うことで、自由に話せる場だということもあると思います。村内にファシリテーターが居たら良いと思う反面、参加者が気兼ねなく話せる環境づくりのためには外部の方をお願いするのが良いのかな…とも思います。ご存じのとおり少子高齢の本村ですが、この村を生活の拠点としている働き盛りの親やその子どもたちがいます。村内に大きな雇用先がないため、ほとんどの親は朝早くから夜遅くまで村外へ働きに出か

け、子どもたちと過ごす時間が十分に持てないのが実情です。また、地域のつながりはとても深い村ですが、同じ地域に同じ世代がいないこともあり、親同士、子ども同士の学校外での交流の機会があまりありません。「ワクワク子育てトーク」を通じて、親と子どもはもちろんのこと、親と親、子どもと子ども同士がそれぞれの意見を尊重し共有することで、それぞれの絆をよりいっそう深めることにも繋がるのではと考えます。今後も事業を継続していきたいと思いますが、事業の対象となる幼児・小学生・中学生が大変少ないこと、事業に携わる職員も限られていることから、行政主導で企画実施することはなかなか難しいところがあります。しかし、学校や家庭、親や子どもの悩みも多様化しているので、ぜひ今後も県や教育事務所のご支援ご協力をお願いしたいと思います。また、毎回参加者の顔ぶれが同じになってしまうので、自治体を越えた「ワクワク子育てトーク」もあったら良いと思いました。そのためには、行政間の連携も必要になってくると思いますが、例えば、郡子育て連を通じた事業なら可能かとも思いますので、検討していきたいと思えます。

○課題解決のための方策提案（提言）

本調査の実態から推察される課題について、観点別に方策等を提言する。（※）

（※）本提言は、プログラム普及等に係る県の取組への提言としているため、県を実施主体とする標記となっています。

1 周知について

○現在行っている周知（チラシ配布・会議や研修等での説明）に加え、プログラムの内容、実際の活動の様子、効果が読み取れるチラシ、映像等を作成し、配布のみにとどまらない広報（口頭説明・映像提示等）を行う。また、ぐんまの親の学びプログラムを紹介するWebページ（群馬県生涯学習センター「まなびねっとぐんま」）が、実際の流れから内容まで紹介しているので、閲覧してもらえるようアピールする。

○学校教育所管部局・子育て支援所管部局等と連携し、学校関係者や子育て支援団体（教育委員会が所管していない）や保育園（私立こども園・幼稚園）への活用を促す。

○引き続き、県内家庭教育支援担当者への研修会を開催し、プログラムの内容・実施までの流れについて、例示を加えながら説明し、実施の協力を依頼する。

2 活用について

○プログラム実施上の課題や県への支援要望の種類の観点から次の3点を挙げる。

- ・当県職員によるファシリテーター実施を継続し、可能であれば計画の段階から画的に支援を行うことで、市町村担当職員の負担軽減に努める。
- ・本プログラムのファシリテーター派遣に費用がかからないこと、少人数でも実施可

能であることを再周知した上で、プログラムの活用拡大を図る。

- ・プログラムの利用促進、内容充実、対象の拡充、テーマの追加、構成の工夫について、普及拡大委員会等の会合をとおして、利便性の向上、効果の増大を図る。

○活用拡大を図るため、市町村での実施主体である教育委員会事務局との協力体制の強化も含め、県としてのプログラム普及による家庭教育支援の行程表等を提示し、理解協力を求める。特にファシリテーター養成については、地区編成を含む具体的な活動までの流れを市町村に示し、理解協力を求める。

3 その他（全体をとおして）

○教育センター、子育て支援センターの事業内での実施について、当該所管部局と協議を進める。

○今後の普及拡大を考慮し、担当者レベルでの申合せ・プログラムの改善充実を図るための会合を行う。

以上

~~~~~  
おわりに

今回の調査において、一部ではありますが、市町村の皆様の実態や考えを知ることができ、今後の施策推進に参考となるデータを収集することができました。あらためて御礼申し上げます。

皆様の御協力のおかげで、本プログラムの実施に係る様々な課題が見えてきました。中には大変難しい課題もあります。しかし、家庭教育支援の取組は、少子高齢化・社会情勢の変化に伴う生活形態の変化など、複合的な要因により喫緊の課題となっております。市町村の皆様のお力をお借りしながら、親も子どももいきいきと生活できる家庭教育支援充実のため、今後とも本プログラム普及に御理解御協力をどうぞよろしくお願いいたします。